

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	佐賀市立北山東部小学校
1 前年度 評価結果の概要	すべての項目で十分達成、おおむね達成となった。時間外在校等時間 年間360時間以内達成が全職員とはならなかったものの、業務改善及び職員の働き方に対する意識改革も前進し、教育の質の向上につながった。次年度は、更なるワークライフバランスの充実を実現させながら、以下4点の改善・充実に取り組む。 ①授業の「ふりかえり」の充実により、指導と評価の一体化を進め、自己調整力の向上等、主体的に学ぶ態度の育成を図る。「進んで学習」 ②集団や自身の高まりを考え、率先して範を示す児童を増やしたい。、何事にも失敗を恐れず挑戦する態度を養う。「心と体を鍛えて何事にもチャレンジ」 ③学年相応の役割や望ましい行動についての判断場面や思考場面を設定し、「みんなが」「みんなが」「みんなのために」協働する児童の育成を図る。「自分も友達も大切に」 ④地域、保護者、学校職員の議論を重ね、持続可能な取組としての山村留学の新しい形を定着させていく。

2 学校教育目標	郷土を愛し、心豊かで心身共にたくましく、生き生きと学ぶ東部っ子の育成 「進んで学習」「心と体を鍛えて何事にもチャレンジ」「自分も友達も大切に」
----------	-----------------------------------------------------------------------------------

3 本年度の重点目標	①めあてをもって主体的に学習し、自分の考えを進んで発信する児童の育成 ②健やかな体と心を持ち、前向きに何事にも挑戦する児童の育成 ③自他や郷土の良さを知り大切にするとともに、相手を思いやり、共に生きようとする児童の育成
------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目							
評価項目	重点取組		具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
	取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80% (4名)以上	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研究等により取組の促進を図る。	A	・マイプランを共有することができた。 ・校内研の内容とマイプランを関連付けられたので、それぞれの課題点が見出され、80%以上の教師が達成することができた。 ・研究やマイプランに関する困っていることを挙げる環境づくりができた。	A	・80%以上の先生がマイプランの数値目標を達成できているのは評価できる。今の指導を続けて欲しい。
	◎主体的な学び手を育成する授業の実践 (主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導方法の改善充実)	○県学習状況調査及びCRTテストの国語の正答率が県平均を上回った児童75%(9名)以上	・次の学びにつながる「ふりかえり」の充実 ・一人一台児童用パソコンを活用した振り返りの児童間の共有及び善績と分析 ・妥当性のある指導と評価の一体化の実現 ・「個別最適な学び」と「共同的な学び」を一体的に充実させるための一人一台児童用パソコン活用	A	・県学習状況調査を受けた83%の児童はその正答率において県平均を上回った。 ・思考判断表現の力が伸びたことは、校内研の成果と言える。	A	・正答率が県平均を大きく上回ったことは、先生達の指導力を評価したい。
	○ICT機器を活用した協働的な学びの実現	○ICT機器を活用した外部交流のオンライン授業を各担任、前期1回、後期1回の計2回実施	・ICT機器を活用し、共に学ぶ学習者や指導者を学校外に求めるオンライン授業の工夫。 ・極小人数を補うオンライン授業や模試解消を目的としたオンライン授業の実施。	A	・小川小学校とリモート授業を計画した。低学年、中学年は実施することができた。	A	・少人数の学校だからできることであるし、必要なことであると思う。いろいろな学校との交流をしてほしい。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「いつでもどこでも、だれとでも「みんなが」を考えた行動ができた」と回答した児童85%(11名)以上	・「みんなが」を合い言葉にした全職員による一貫性のある指導の徹底 ・特別活動における集団活動やソーシャルスキルトレーニングで、「みんなが」を考えた行動についての思考・判断場面の設定及び評価の充実。 ・生徒指導における年間を通じた指導の充実を図る。 ・月1回の人権集会の充実を図る。	A	・学校評価アンケートで「いつでもどこでも、だれとでも「みんなが」を考えた行動ができた」と肯定的な回答をした児童100%であった。 ・上学年の児童は、下学年の児童のことを思いやる行動ができるようになってきている。下学年の児童も周りの様子が見えるようになってきて、自分から進んで動けるようになってきた。しかし、他者のやるべき仕事までやってしまうこともあり、課題である。「挨拶やありがとう」「こめんね」の言葉が素直に出るようになった。	A	・児童が少ないが故に「いじめ」を心配していたが、全くそのようなことを聞くことがなく、安心している。これも先生方の指導の賜物と感謝したい。 ・あたたかい言葉をかけることができるのはよいことだと思う。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○「こまったことやいやなことはすぐに相談できている」と回答した児童90%(12名)以上	・児童が困った時に話しかけやすい、学校・家庭の環境づくりの計画的な取組の推進 ・SOSの出し方教育の推進 ・教育相談週間、SCによる教育相談の充実。 ・報告・連絡・相談及びいじめ防止基本方針を周知徹底し、迅速かつ組織的対応の徹底を図る。	A	・「困ったことやいやなことはすぐに相談できている」と回答した児童は93%であった。 ・SCとの面談を通し、自分の思いを出すことができる児童が増えてきており、毎月行っている心のアンケートでは、児童が記入した内容を元に担任が個別の時間をとり丁寧聞き取りを行っている。 ・心のアンケートの内容以外の悩み等を児童が担任に話せる時間をどう作っていくか、家庭との連携の場の設定をどう行っていくか課題である。	A	・子どもたちが自分の思いをしっかり伝えることができるのはいいことだと思う。 ・思いを伝えることも大事だが、協調性も集団のなかでは大切だと思う。
●健康・体づくり	●「運動習慣の改善や定着化」	○「スポーツチャレンジを精いっぱい努力し、目標に近づいた(達成した)と回答した児童75%(9名)以上	・県保健体育課実施のスポーツチャレンジの種目の中から全校で「たてわり8の字」と「みんながウオーキング」の2種目にエントリーし、目標を設定した長期的スパンで取り組む。	A	・学校評価アンケートの結果は93%が肯定的であった。 ・エントリーした2種目に目標を立てながら取り組んだ。特に「たてわり8の字」と「みんながウオーキング」には熱心に取り組み、最初の記録を100以上伸ばす結果となった。また児童Aが「提出日が終わってもまだ長編したいです」と発言し、この取り組みは定着化に寄与した。	A	・スポーツチャレンジには、毎年エントリーして欲しい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・各行事・取組における前年度踏襲の見直しを図る。 ・「働き方改革」のための議論の場を年間2回以上設定する。(改善アンケート8月、1月) ・教諭等の業務の一部を支援する等事務職員の学校経営への参画を進める。	A	・10月～1月は全てで、時間外在校等時間の上限(45時間以内)を守ることができた。※職員平均 ・10、11月は学校行事や研究授業の準備等で遅くなることもあったが、12月以降は業務に軽重を付け、早目に切り上げて退勤する習慣がつつきつつある。 ・木曜日を短縮校時にしたのは余裕ができてよかった。 ・改善アンケートを基に、職員間でアイデアを出し合いながら来年度の計画に生かしていけるようにする。	A	・本校は他にない山村留学制度を実施しているにもかかわらず、月45時間という基準以下に抑えられており、その工夫は大いに評価できる。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目							
評価項目	重点取組		具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
	取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○特色ある学校づくりの推進	○保護者・地域と協働した持続可能な取組としての山村留学の改善・充実	○「やまばと山村留学は、持続可能な取組として改善が進んでいる」と回答した保護者90%以上。	・実行委員会(地域、保護者、学校)で、持続可能な山村留学のあり方についての議論を重ねる。 ・家族留学生を2世帯以上確保を目指して、家族留学制度の充実及び啓発に努める。 ・教育活動の見直しを行い、学校の特色となる取組の焦点化・重点化を図り学校の魅力度アップに努める。 ・ホームページ、学校だよりで学校の取組を広く発信し学校の特色を広める。	B	・「やまばと山村留学は、持続可能な取組として改善が進んでいる」と答えた保護者は100%。 ・実行委員会と連携し、家族留学の取組みがスムーズになるような働きかけを行った。 ・短期留学や長期留学の募集、マスコミへのPR活動などが3年ぶりにできた。無難な程度で進めていく事を実行委員会の中で確認した。 ・学校行事とやまばと山村留学の行事をうまく組み合わせたり、職員と保護者の役割を明確化したことなどで、取組みやすい山村留学制度にしていく。 ・ホームページの更新は少しずつこまめにしていくようにする。	A	・県内唯一の山村留学実施校であることが、大きな特色である。先生方がその遂行に力を注いでいただいていることは非常にありがたいことであり、大いに評価したい。 ・持続可能な取組みにしていく上で、負担が偏らないようにして欲しい。

5 総合評価・次年度への展望	●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育 すべての項目で十分達成、おおむね達成となった。業務改善委員会の開催や職員のタイムマネジメントを向上させることで、働き方改革や業務改善の推進を図ることができ、教育の質の向上につながった。 ・次年度は、以下4点の改善・充実に取り組む。 ①「学習課題づくり」に重点を置きながら、「ふりかえり」の視点を生かして、教師の授業改善と児童の学力向上を目指す。「進んで学習」 ②一人一人に出席・役割を与えることで、何事にも挑戦する態度を養う。「心と体を鍛えて何事にもチャレンジ」 ③「道徳」「人権教室」の時間を中心に、全ての教育活動で人権教育の充実させ、児童の他者への思いやりの心を育成する。「自分も友達も大切に」 ④地域、保護者、学校職員で、取組の継続・改善の議論を重ね、コロナ禍後の山村留学の新しい形を定着させていく。
----------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------